

# 児童図書館員 アン・キャロル・ムーアの生涯



ANNE CARROLL  
MOORE

*A Biography by*  
FRANCES  
CLARKE SAYERS

まえがき  
謝辞

1. ルーツ
2. アルダーウッド
3. ブラッドフォード
4. プラット学院：学生時代
5. プラット学院：職業時代
6. 故国と外国
7. ニューヨーク公共図書館
8. 最初の十年
9. 中央児童室：児童の場
10. 「塔」の影
11. ニコラス
12. ライオン図書館の背後で
13. フクロウの羽ばたき
14. 「バルコニー」から
15. 後悔と回想
16. 十分なる至福

原典注  
年表  
索引  
フランセス・クラーク・セイヤーズ略歴  
訳者あとがき

## 図版

乳児期のアン・キャロル・ムーア  
7歳のアン・キャロル・ムーア  
ルーサー・サンボーン・ムーア  
サラ・ヒドン・バーカー・ムーア  
アルミラ・ボードマン・バーカー  
アルダーウッド  
少女時代のアン・キャロル・ムーア  
学生時代のアン・キャロル・ムーア (1892年)  
アン・キャロル・ムーア、フローラ・カトラー、アリス・タイラーとマリット・  
ブレールとともに  
ニューヨーク公共図書館児童室担当のアン・キャロル・ムーア (1906年)  
児童サービス主任アン・キャロル・ムーア (1930年代)  
図書館の本を申請する子どもたち  
プラット学院における式典行列  
アン・キャロル・ピーターソンとアン・キャロル・ムーア (1950年代)

## ■フランセス・クラーク・セイヤーズ略歴

フランセス・クラーク・セイヤーズは、テキサス人であり、彼女の言葉では「たまたまカンザス州のトピカで生まれていた」。サンタフェ鉄道の役員であった父親は、ガルヴェストンに移住していた。彼女は、古い南部および海港の国際的雰囲気の中で育った。彼女の父親は保守的な人で、母親は「戦闘的なリベラル」だった。セイヤーズと妹にとって、家庭は生き生きとした場であった。

10歳か12歳でセイヤーズが発表した『セント・ニコラス』誌の論文が、女性の新たな職業である児童図書館員への関心を彼女に呼び起した。やがて彼女はピッツバーグのカーネギー図書館学校の学生となった。本書の主人公であるアン・キャロル・ムーアが訪問講師として図書館学校に赴任し、セイヤーズにニューヨークで働かないかと誘った。5年間セイヤーズはニューヨーク公共図書館の中央児童室に勤務した。その後、一時期カリフォルニアで過ごした後、セイヤーズは1941年から1952年には児童サービス主任としてニューヨーク公共図書館に戻っていた。1954年より1964年にかけて、彼女はカリフォルニア大学ロサンゼルス校の図書館学校および英文学部の上級講師であった。

ミス・ムーア、ニューヨーク、同市の子どもたち、そして、セイヤーズが結婚した相手の図書館員で図書収集家のアルフレッド・ヘンリー・ポール・セイヤーズが、彼女の言う生涯の主たるテーマとなっていた。



セイヤーズは現在、カリフォルニア州のオハイに住んでいる。彼女は児童関係の6冊の本、『ルシンダのブルーボネット』、『ミスター・タイディ・ポウズ』、『トーローについてゆき』、『ギニーとカスタード』、『サリー・ティット』、『オスカー・リンカーン・バスビー・ストークス』の著者である。彼女の成人向けの本は『本に召し出されて』および『児童文学選集』(共著)であった。

(本書より)

# 児童図書館員 アン・キャロル・ムーアの生涯

著／フランセス・クラーク・セイヤーズ 翻訳／藤野 寛之 (阪南大学教授)

◎A5判・上製・書袋入・272頁

◎価格 10,000円 ISBN978-4-907236-98-4

◎2018年11月刊行

※本書は文化庁の許可を得て刊行するものである

ムーアは波乱に富んだ人生を送ったわけではなかったが、本書からは自分の仕事に対する情熱や誇り、仕事に取り組む真摯な姿勢がひしひしと伝わってくる。セイヤーズは本書「まえがき」で、ムーアの人生をアイザック・スターン、パブロ・ピカソに比していた。わが国では、自伝を例外として、翻訳作品としては図書館員の伝記作品はほとんど出されていない。図書館史の研究を進めてゆくうえで、図書館の歴史のみならず人物研究もまた、図書館員の生きた記録として重要であろう。イギリスの図書館員の伝記作品『エドワード・エドワーズ』(金沢文圃閣, 2008)と比べて読んでみると、時代的・文化的な差異、など別の発見もあるだろう。

(訳者あとがきより)

※アン・キャロル・ムーアについては絵本もできています



『図書館に児童室ができた日：アン・キャロル・ムーアのものがたり』(徳間書店、2013年)

## 訳者略歴

藤野 寛之 (ふじの・ひろゆき)

阪南大学国際コミュニケーション学部教授。研究分野は欧米図書館史。著書に『児童書批評誌『ホーン・ブック』の研究』(小閣、2013)、訳書に『エドワード・エドワーズ—ある図書館員の肖像 1812-86』(小閣、2008)、『プリティッシュ・ライブラリー—成立関係資料集』(小閣、2010)、『新・イギリス公共図書館史—社会的・知的文脈 1850-1914』(日外アソシエーツ、2011)、共著に『図書館を育てた人々—イギリス篇』(日本図書館協会、2007)などがある。

## [ 図書館学古典翻訳セレクション ] ご案内

- [ 図書館学古典翻訳セレクション 4 ] 2008年刊  
『ピアス・バトラー 図書館学/印刷史著作集』全一卷  
ピアス・バトラー著/藤野幸雄訳 445頁 18,000円
- [ 図書館学古典翻訳セレクション 5 ] 2008年刊  
『エドワード・エドワーズ—ある図書館員の肖像 1812-86』全一卷  
ウィリアム・マンフォード著/藤野寛之訳 275頁 10,000円
- [ 図書館学古典翻訳セレクション 6 ] 2010年刊  
『プリティッシュ・ライブラリー—成立関係資料集』全二巻  
藤野寛之翻訳・解説 1巻433頁 2巻158頁 35,000円
- [ 図書館学古典翻訳セレクション 7 ] 2011年刊  
『セイヤーズの児童図書館マニュアル』全一卷  
W. B. セイヤーズ/藤野寛之訳 194頁 12,000円
- [ 図書館学古典翻訳セレクション 8 ] 2017年刊  
『セイヤーズの分類マニュアル—図書館員と書誌学者に向けて』全一卷  
W. B. セイヤーズ/藤野寛之訳 490頁 19,000円



## 〈関連書籍〉

- [ 阪南大学叢書 97 ] 2013年刊  
『児童書批評誌『ホーン・ブック』の研究  
：歴代編集長と協力者 1924-2000年』全一卷  
藤野寛之著 229頁 15,000円

